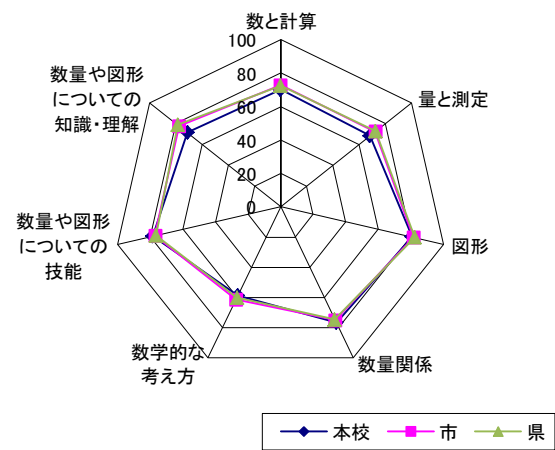


宇都宮市立平石北小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.1	72.9	72.6
	量と測定	68.2	72.4	72.6
	図形	80.5	81.4	82.1
	数量関係	76.8	75.2	74.6
観点	数学的な考え方	58.8	61.3	60.2
	数量や図形についての技能	78.5	77.0	76.5
	数量や図形についての知識・理解	71.3	77.8	78.8



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・市の平均正答率を2.8ポイント下回っている。四則計算の校内正答率はおよそ県の平均正答率と同じである。しかし、式の意味と場面を結びつけて説明したり、余りを切り上げて処理することを説明したりする問題は県の平均正答率を約10ポイント下回っている。	・宮っ子学カステップアップシートや計算ミニテストを継続的に実施し、習熟を図る。 ・機械的に計算の仕方を理解するだけでなく、式の意味についても図などを利用して指導する。
量と測定	・市の平均正答率を4.2ポイント下回っている。ある時刻から一定時間後の時刻を求めたり、はかりに示された重さを読み取ることができたのは、約85%だった。時間の分と秒の単位の関係については校内正答率が県の平均正答率より約10ポイント低く、課題が見られる。	・実際に長さを測ったり、重さを量ったりするなど、体験を通して長さや重さの感覚を身に付けさせる。 ・単位の学習では、長さや重さでは単位量あたりの実物を用意したり、時間では1分や1秒の長さを体感させたりして、理解を深めさせる。
図形	・市の平均正答率を0.9ポイント下回っている。三角形の定義の理解や二等辺三角形の作図については校内正答率が93.8%と高い。反面、球の半径と直径の関係については校内正答率が59.4%と低く、立体の構成要素の理解が不十分である。	・図形をかく練習を通して、多角形の定義を理解するとともに、正確に作図ができるようにする。 ・立体の学習では、実物を用意するなど視覚的に形の特徴を捉えられるようにする。
数量関係	・市の平均正答率を1.6ポイント上回っている。棒グラフの読み取りについては校内正答率が87.5%と高い。しかし、□を使った乗法の式に合った文章問題を選ぶ問題では校内正答率が53.1%と低い。	・棒グラフでは、縦軸のひと目盛りの大きさに注意して、各項目の数量を読み取ったり、比較したりできるようにする。 ・社会や理科、総合的な学習の時間の学習とも関連させてグラフのかき方を指導し、進んでグラフが活用できるようにする。 ・式の中の□について、図などを利用して□の意味を理解させる。